

ヒコビア植物観察会の記録, 1985年4月~12月

関 太郎¹・吉野 由紀夫²

SEKI, T. & YOSHINO, Y. 1986. Activities of the Hikobia Monthly Botanical Tour during Apr.-Dec., 1985. *Hikobia* 9: 537-543.

Tarow Seki, *The Miyajima Natural Botanical Garden, Faculty of Science, Hiroshima University, Murohama, Miyajima-cho, Saiki-gun, Hiroshima 739-05, Japan.*

Yukio Yoshino, *Botanical Institute, Faculty of Science, Hiroshima University, Higashi-senda-machi, Hiroshima 730, Japan.*

1985年(昭和60年)

4月21日, 広島県佐伯郡湯来町伏郷一東郷山, 「広島」上左³. 参加者58名. 東郷山(977.4m)は広島市安佐南区と佐伯郡湯来町との境界に位置し, その北斜面は恵下谷山国有林で, とくに頂上近くには学術参考保護林もあって, 植物相の豊富な山として古くから有名である. しかし, 今日のコースは南西斜面から尾根伝いに登るので, 大部分は二次林やスギ・ヒノキ植林となっている.

伏郷(海拔400m)から谷沿いにアカマツ二次林の中を登っていくと, コバノミツバツツジが満開で, ソヨゴ, アセビ, コシアブラ(展葉中), クリ(発芽), リョウブ(展葉中)などの林下に, ショウジョウバカマ(花)やウツクシザサが群生している.

海拔500m付近に, かなり大きな滝があって, ウラジロガシ, ハイノキ, シキミ, ソヨゴ, ヤマグルマなどの林が岩の多い溪側に成立し, 湿った花崗岩上にはショウジョウバカマ(花), オオイワカガミ(つぼみ), コウヤトゲハイゴケ(*Brotherella nakanishikii* (Broth.) Nog.), ヤマトフデゴケ(*Campylopus japonicus* Broth.), オオシラガゴケ(*Leucobryum scabrum* S. Lac.), オオミズゴケ(*Sphagnum palustre* L.)などが群生している. 以前に, この滝の所で大きなコウヤマキを見た記憶があったのですが, 見当たらなかった.

暗いスギ植林地(580m)で昼食の後, 急坂をたどって, 明るい尾根に出た. 好天に恵まれて, 眺望がすばらしい. 海拔650~850mの尾根には, コナラ, アカマ

ツ, モミ, ツガ, ソヨゴ, アセビ, タムシバ(満開), コバノミツバツツジ(花), クロモジ(花), オオイワカガミ(つぼみ), ウツクシザサなどが見られる. カナクギノキの胸高直径30cmに達する大木が2本見つかる. 頂上(977m)付近のブナはまだ芽が少しふくらんだ程度であった. 東郷山の南西斜面には, 山麓(400m)から, 頂上までウツクシザサ(ミヤコザサ節)が大量に生育しているのが注目される. 頂上付近ではチュウゴクザサ(チマキザサ節)とまぎらわしい型もあったが, 竹田孝雄先生が採集された標本を鈴木貞雄博士に送付したところ, すべてウツクシザサと同定された. 東郷山は両種の間関係を研究するには格好のフィールドと思われる.

5月26日. 広島県賀茂郡福富町久芳一鷹ノ巣山, 「可部」下右及び「乃美」下左. 参加者55名. 鷹ノ巣山(922m)は福富町と高田郡向原町との境界に位置し, 国有林で植物の豊富な山として知られていたが, その後, 伐採が進み, 今では頂上付近にブナ林がわずかに残されているにすぎない. この山の植物については, 賀茂郡北部植物実習会(1931)の目録があり, 鈴木・関(1978)ではモミ・ブナ混交林の報告がある. 久芳でバスを下車, 押谷を経由して, カンノキ山と鷹ノ巣山の間を峠を目指して進む. 峠(740m)から急な尾根を頂上へたどり, 海拔790mでブナ, 860mでミズナラを確認した.

頂上ではレンゲツツジとアキグミが花盛りで, 好天のもと一同で昼食をとる. 頂上西斜面で, ブナ林の植生調査を松井健一・井内久利・吉岡道郎君たちと行った.

¹ 739-05 広島県佐伯郡宮島町室浜, 広島大学理学部附属宮島自然植物実験所.

² 730 広島市中区東千田町, 広島大学理学部植物学教室.

³ 以下「」内は国土地理院の5万分の1図幅名を示し, 図幅を4区分した位置を上下左右で示す.



図1. スズランの県内の南限地, 広島県賀茂郡福富町鷹ノ巣山 (海拔 630m). 撮影 関 太郎. 26. V. 1985.

「可部」下右, 海拔 900m, 方位 W, 傾斜 30°, 面積 20×20m, 高木層 18m, 植被率 60%, 胸径 90cm, ブナ3.2, クリ1.1. 亜高木層 8m, 70%, 10cm, ウリハダカエデ 3.3, アセビ2.2, タンナサワフタギ2.2, カマツカ, クリ, ネジキ, イワガラミ, オオズミ (以上1.1), ヤドリギ+. 低木層 2.5m, 80%, タンナサワフタギ3.3, アセビ, ウリハダカエデ, コアジサイ (以上2.2), クロモジ 1.2, コハウチワカエデ, モミ, コバノガマズミ, イワガラミ (以上1.1), ツルシキミ+.2. イヌツゲ, マルバアオダモ, イヌシデ, ツタウルシ, ハイノキ, ミヤマノキシノブ (ブナ着生), カスミザクラ, ミズナラ (以上+). 草本層 0.3m, 50%, ウリハダカエデ (芽生え) 3.3, カシワバハダマ2.2, ツタウルシ, ケタガネソウ (以上1.1), チゴユリ, クロモジ (芽生え), タンナサワフタギ (芽生え), ミヤコアオイ (以上+.2), シシガシラ, ヤワラシダ, ミヤマガマズミ (芽生え), オオバノトンボソウ, サルトリイバラ, ツルリンドウ, モミ (芽生え), コシアブラ (芽生え), イヌツゲ, アカシデ (芽生え), コバノガマズミ (芽生え), コナラ (芽生え), タチドコロ, アキグミ (芽生え), マルバアオダモ (芽生え), シハイスマレ (以上+).

頂上東側の水場付近の緩斜面にはブナとモミの混交林が成立し, これが鈴木・関 (1978) によって報告された所である. この付近にカタクリがあるとのことで, 一同でさがしたところ果実が見つかったが, 大部分の葉は枯れていた. ここでミヤマタニタデとサワハコベも見つかった.

再び久芳の方へ向かって下山したが, 途中で松村雅文さんがスズランを発見された. この地点は本種の南限地 (当時) として広島県天然記念物に指定された甲山町の

男鹿山 (1984年 5月27日に観察会を行った. 関・吉野 1985参照) より, 緯度に沿ってさらに約 10km も南で, 県内の新しい南限地が見つかったことになる. 男鹿山から鷹ノ巣山までは直線距離にして, 南西へ約 27km 離れている. スズラン生育地の植生調査の結果を示す. 「乃美」下左, 海拔 630m, 方位 E, 傾斜 25°, 面積 5×5m, 高木層 18m, 植被率 90%, 胸径 25cm, スギ 5.2. 亜高木層 8m, 10%, ゴンズイ 1.1, サルナシ 1.1. 低木層 2.5m, 70%, コアジサイ2.2, ヒサカキ1.2, カナクギノキ, ヤブムラサキ, コガクウツギ, ピロウドイチゴ, キブシ (以上1.1), ヌルデ+, 草本層 0.3m, 60%, スズラン2.2, ミゾシダ1.1, タニギキョウ, ノブドウ, ツタウルシ, チゴユリ, コタチツボスミレ, イネ科の一種 (以上+.2), ワラビ, イナカギク, ゲンノショウコ, ハンショウヅル, チヂミザサ (以上+). スズランの花期ではあるが, 花は見られなかった.

この日の観察会で確認されたオヌカザサ (ササ属, ミヤコザサ節) とスダレヨシ (メダケ属) が竹田 (1985) に報告されている.

6月23日, 広島県御調郡久井町行広一久井の岩海, 「府中」下左, 参加者34名. あいにくの激しい雨の中を貸切バスで三原駅前を出発した. 久井の岩海は宇根山 (698m) の南麓に発達し, 気候の変化により花崗閃緑岩が節理に沿って破壊されて巨礫となり, 原地に残された岩石の累積現象で, 日本では最大規模のものである (鷹村1979). 昭和39年に国の天然記念物に指定された. この地域の植生については広島県理科教育センター (1972) と Hukusima (1979) の報告がある. 岩海「おごろう」の下方で, 松井健一・井内久利君らと共に



図2. 久井の岩海, 広島県御調郡久井町 (海拔 500m). 撮影 三上幸三. 23. VI. 1985.

た植生調査の結果を次に示す。

海拔 510m. 方位 W, 傾斜 10°, 面積 10×20m, 礫の径 0.7~2m, 花崗閃緑岩. 高木層 8m, 植被率 20%, 胸径 20cm, コナラ2.2, イヌガヤ1.1, ウワミズザクラ1.1. 亜高木層 5m, 10%, イヌガヤ, リョウブ, ヒイラギ (以上1.1) (ニガキ). 低木層 1.5m, 30%, ウツギ2.3, ダンコウバイ, タラノキ (以上2.2), フジ, ヤマウルシ, イワガラミ, リョウブ, サンショウ, ツリバナ (以上1.1), ミヤマイボタナ², ナツツタ, コツクバネウツギ, ウワミズザクラ, イヌガヤ, コムラサキ (以上+), (ヤマガキ). 草本層 0.3m, 70%, イワガラミ3.4, アオツツラフジ, モリイバラ⁴ (以上1.2), ヌルデ1.1, チヂミザサ, トラノオシダ, ヘクソカズラ (以上+ .2), ノキシノブ, スゲ属の一種, コオニユリ, ネギ属の一種, リョウブ (芽生え), アカメガシワ (芽生え), ススキ, ノブドウ, アマヅル, サンカクヅル, ヤマウルシ (芽生え), ムラサキニガナ, アカマツ (芽生え), ヤマガシュウ, ミヤマナルコユリ (以上+). この植生は Hukusima (1979) のウワミズザクラ-ツルアジサイ群落 (典型群の典型小群) と同定される. この調査地点で注目すべき種はネギ属 (*Allium*) の一種で, 礫の凹地に鱗茎がびっしりと固まって群生していた. 6月の時点ですでにつぼみがあったが, 栽培していたら10月に入って開花した. 色は濃紫色でヤマラッキョウに似ているが, 花茎が鱗茎とは別に側方から出ている点で明らかに異なる.

この日の観察会で確認されたササ類が竹田 (1985) に次のように報告されている. アズマザサ属: アズマザサ (行広), ジョウボウザサ (行広), オオバシノ (行広), ヤブザサ (岩海). メダケ属: スダレヨシ (行広), エチゼンネザサ (行広), アキバザサ (行広). このほか, 岩海下部にコバノチョウセンエノキがあったが, この木には "エノキ" と名札がかかっていた.

7月14日. 広島市安佐北区狩留家^{あきるが}一高鉢山. 「海田市」上左. 参加者48名. この山では1958年4月20日にヒコピア採集会が行われ, その時にイワヒトデが発見されたことは, 安藤 (1960) に記録されている. その後, イワヒトデが健在かどうか確かめることが, 今回の目的のひとつであった. 好天に恵まれたがむし暑い日で, 芸備線狩留家駅の裏から谷を登って行く. この付近一帯は高陽鉱山から続いている古生層のチャートや粘板岩が分布

している (鷹村1979).

海拔 70~100m のマダケ及びモウソウチク林縁の溪側にはヤブツバキ, アオキ, ネコノチチ (若い果実), アラカシ, ナンテン, オオサンショウソウ, フモトシダ, オオカナワラビ, フユイチゴ, アマチャヅル, ウバユリ (つぼみ), ミツバ (花), シヤガなどがよく茂り, 注目すべき種としてヒメナベワリが見つかった. イワヒトデは 70m 付近から点々と見られ, 100m 付近では溪側に群生している. 倉田・中池 (1981) の分布図によれば, 本種は広島県でここにしか知られていない. このほか興味深いシダ類として, クリハラン, ヤノネシダ, キフベニシダなどが見つかった.



図3. イワヒトデ, 広島市安佐北区狩留家一高鉢山 (海拔 100m). 撮影 吉野由紀夫. 14. VII. 1985.

急斜面のスギ植林地を登っていくと, シラカシ (190m), フユイチゴ, カラムシ, アカソ, マタタビ, タブノキ (320m), イヌガヤ, アオキ, ノグルミ, ムラサキニガナ (つぼみ), イケマ (花) (380m), コバノノキ (420m), サンヨウアオイ (若い果実) (450m) などが現れた. 海拔 500m 付近から尾根となり, リョウブ, コガクウツギ, コバノミツバツツジ, カナクギノキ, エイザンスミレ, タカノツメ (600m), コムラサキ, アセビ, ヤブレガサ (630m), ヤマツツジ (花) (650m), シロダモ, ハリガネワラビ, ウワミズザクラ, ツタウルシ

⁴ Hukusima (1979) の Tab. 1 の *Rosa multiflora* (ノイバラ) は本種ではないと思われる.

(680 m) などが見られた。頂上 (705.8 m) はスギ植林地に囲まれて眺望はきかない。頂上付近で見られた植物は、ヤマヤナギ、クロモジ、コシアブラ、ガマズミ、クロキ、カナクキノキ、レンゲツツジ、ナツハゼ、ウリハダカエデ、サイゴクベニシダ、ウラジロノキ、ソヨゴ、スノキなどで、ヤマヤナギやレンゲツツジの存在から、頂上付近はかつて陽当たりのよい草原状であったと推察される。

この日の観察会で確認されたメダケ属としてネザサ、スタレヨシ、シブヤザサ、コンゴウダケが竹田 (1985) に報告されている。

8月24~25日、島根県^{いしし}飯石郡^{いしし}頓原町^{とんげん}／広島県^{ひろしま}比婆郡^{ひば}高野町^{たかの}大万木山^{おほまふき}。「頓原」下左。参加者34名。大万木山 (1218 m) は、島根・広島県境に位置し、広島県側は急傾斜で道もよくないが、島根県側は緩やかで登山道の整備も行き届いている。大万木山にサンカヨウがあるという情報⁵を三上幸三氏が故堀川芳雄教授にもたらしたところ「信じられない」といわれたので、その確認のために1963年6月22~23日にヒコピア採集会 (8周年記念) が広島県側から行われた。参加者は安藤久次・佐々木好之・三上幸三氏ほか学生22名が参加し、当時、高野中学の教諭であった中村慎吾博士が案内された。その結果、果実をつけたサンカヨウの生育が確認された。故佐々木好之博士は1951年と1960年に大万木山頂上付近で、12方形区のブナ林の調査を行っているが、サンカヨウの記録はない (Sasaki 1964)。また鈴木・関 (1978) では石橋昇・中西弘樹・松本こずえ・品田泰氏らの1973年の調査を引用しているが、やはり本種の記録はない。そこで本種の生育地、とくにブナ林との関連を調べるのが今回の主目的であった。

8月24日午後3時、バスや自家用車で頓原町営の保養センター「琴引荘」に集合、コースの下見をかねて、登山口付近の植物を観察した。25日、好天に恵まれて、順調に登頂。三角点の囲りの草原で一同輪になって昼食をとった。さてサンカヨウは、三上幸三さんの記憶にたよってブナ林の中をさがしたが、なかなか見つからない。当時はブナ林の伐採跡であったところが、現在は樹高20 mに近いブナ林に回復しているので、様子がまったく異なっているらしい。そのうち、藤岡尚美さんがサンカヨウの果実を発見したので、それを手掛りにさがしたところ、完全に枯死した地上部が数本見つかった。



図4. 大万木山頂上にて、広島県比婆郡高野町/島根県飯石郡頓原町 (海拔 1218 m)。撮影 石川真智子、25. Ⅷ. 1985.

佐々木博士の調査は9月と10月に行われており、本種を見出し得なかったものと思われる。石橋博士らの調査は7月末で、標本 (中西弘樹 No.7444) は採集されているが、方形区内での確認が困難であったのではなかろうか。サンカヨウの見つかったブナ林の調査を久藤広志先生と共に行った。

海拔 1200 m, 方位 N40°E, 傾斜 5°, 面積 15×15 m, 高木層 18 m, 植被率 75%, 胸径 40 cm, ブナ 4.4, 亜高木層 7 m, 10%, 10 cm, オオイタヤメイゲツ 1.1, ツタウルシ +. 低木層 1.5 m, 90%, クロモジ 4.4, サワフタギ 3.3, チマキザサ 2.3, ヤマアジサイ 2.2, コシアブラ +. 2, ムシカリ, ニワトコ, コバノトネリコ, ハイイヌガヤ, イヌツゲ, ツノハシバミ, タンナサワフタギ (以上 +), 草本層 0.6 m, 80%, コバノイシカグマ 3.3, オクノカンズゲ 2.2, ツルアリドウシ 1.2, サンカヨウ, ヤマソテツ, ミヤマカタバミ, サラシナショウマ, オシダ, スミレサイジシ (以上 +. 2), ミヤマベニシダ, ゼンマイ, アキチョウジ, コタチツボスミレ, ツルニンジン, ツクバネソウ, トチバニンジン, ハリガネワラビ, シシガシラ, ユキザサ, シラネワラビ, マルバフユイチゴ, ホソバトウゲシバ, ミヤマイタチシダ, ミゾシダ (以上 +).

9月29日、広島県^{あじし}庄原市^{しんじ}新市町^{しんじ}藤尾溪谷。「井原」上左。参加者33名。藤尾溪谷は芦田川の一支流である神谷川の上流にあたる。現在は新市町になっている旧藤尾村は大部分が国有林で、河毛周夫^{こま}氏の調査によって、多くの興味深い植物が報告された (河毛1933)。その後、河

⁵ 三上氏によれば1950年代の雑誌「山と溪谷」に載っていた由である。

毛氏の案内で林(加藤)弥栄氏が同地の植物相を調査され、数種の報告がある(加藤1940, 林1941)。今回の観察会では、河毛氏が案内して下さることになった。

三原駅前を貸切バスで出発、尾道を経由して府中市に向かった。府中市から河毛氏が乗車され、藤尾溪谷の植物の説明を聞きながら、金丸で下車した。今にも降り出しそうな天候のもと、臼原(120m)から神谷川の支流に沿って父尾へ向かう。伐採跡や植林が多いが、跡傍の岩壁には自然植生が少し残っている。アベマキ、アラカシ、リンボク、ヤマガシユウ、テイカカズラ、サイゴクベニシダ、クマワラビなどの林下で、岩壁にキハギ(果実)が多く、イブキシモツケやコガネシダなどの珍種もある。路傍でコイケマが見つかったのは興味深い。本種はすでに河毛(1933)によって藤尾から報告されていたが、県下の他地域からは、堀川(1942)の宮島の記録があるのみであった。しかし、その後、宮島では見つからず、1985年7月7日に沼隈郡横島と田島で発見された。父尾に近い尾根に石灰岩の露頭があると河毛氏から教えられた。こんもりと落葉樹が茂っていて興味深い植生が眺められたが、時間がないのが残念であった。この付近の路傍でイワシデを見出したが、石灰岩上ではなかった。

父尾では、河毛氏からチュウゴクエノキとチトセカズラの生育地(190m)を案内して頂いた。チュウゴクエノキはコバノチョウセンエノキの変種で鋸歯が不鮮明な点で区別される。中国(江蘇・四川)に分布し、河毛氏によって日本で初めて採集された(Maekawa 1933)。その“原木”が50年後の現在、健在なのである。そこは路傍と川岸にはさまれた狭い場所で、付近にはチトセカズラも



図5. チュウゴクエノキ(右方の茂み)とチトセカズラ(左方の木にまきついている)の前で河毛周夫氏(中央)を囲んで、広島県芦品郡新市町父尾(海拔190m)。撮影 関 太郎。29. IX. 1985。

あるので、今後、一層の保護が望まれる。雨が激しくなったので、大急ぎで金丸へ引返した。

10月27日、広島県山県郡千代田町^{かひんざん}海見山。「加計」上右。参加者46名。海見山は千代田町・豊平町・広島市安佐北区の境界に位置し、中国山地の吉備高原面が太田川に落ち込む角に位置している。明神峠(440m)のバス停に集合、一点の雲もない秋晴れのもと登りはじめる。コナラやアカマツの二次林で、ところどころモミが混じっている。クリ、アオハダ、ウラジロノキ、ノグルミ、アカシデ、コバノミツバツツジ、ノリウツギ、ニワトコ、ムラサキシキブ(果)、チュウゴクザサ、シラヤマギク(花)、イナカギク(花)、ヤクシソウ(花)、アキノキリンソウ(花)などが見られる。ハシバミ(610m)、ゴンズイ(果)、クマノミズキ(640m)、などもあった。海拔650mのところ流紋岩からなる小規模な岩海があり、ダンコウバイ、コナラ、エゴノキ、ヤマコウバシ、ヤブムラサキ、ナツツタなどがよく茂っている。日当たりのよい路傍にリュウノウギク(660m)が満開で、キクバヤマボクチも花盛りであった。小規模な湿地(740m)があってヤマドリゼンマイ、ヒメシロネがあったが、オオミズゴケは見当たらなかった。地元の人達がセンブリ(花)を採取に来ていた。

海見山の頂上は870mであるが、時間がないので、マイクロ回線のアンテナのある800mのピークへ向かう。アンテナの付近にはカシワ、ニワトコ、ウツギ、マルバハギ、アセビ、リョウブ、サイコクキツネヤナギ、ヤマヤナギ、イヌザンショウ、ワラビ、ヨモギ、フキなどがあつた。

11月17日、広島県^{たつ}三郡^み三良坂町^{さか}沖江一長沢一灰塚ダム予定地一灰塚。「三次」上右。参加者43名。地元の桑田健吾先生夫妻に案内をお願いして、沖江の先生宅の裏山から長沢へ向かう。ゆるやかな丘陵にアカマツ林がつづき、ソヨゴ、コナラ、ヒサカキ、ヤマツツジ、シブヤザサ、ヤブコウジ、キッコウハグマ(花)、ショウジョウバカマ、ノギラン、ツルリンドウ(花~果)、リンドウ(花)、バイカイカリソウ、トウゲシバなどがある。小さな池があつて、ミクリ属が一隅に茂っている。桑田先生によればヤマトミクリのように思われるとのことなので、泥中から果実を拾って持ちかえつた。精検の結果、やはりヤマトミクリであった。この池で三上幸三さんがイトモを見つけた。池の岸はオオミズゴケの湿原になっていて、スイラン、ツボスミレ、イヌノハナヒゲ、

チゴザサ、ヒメシロネ、ヤチカワズゲ、ヌマガヤなどがあつたが、ほとんど枯れ果てていた。路傍でミズズギ(280m)を見つけた。県内の内陸部ではめずらしい。

丘陵地の尾根(300m)に出ると、アカマツ林の林床に地衣類のハナゴケとトゲシバリが一面に生えて、Toyohara (1984) の *Cladio aggregatae-Pinetum densiflorae* (アカマツ-トゲシバリ群集) の *Acanthopanax sciadophylloides* (コシアブラ亜群集) と同定される松林になった。桑田先生によると、この林型にマツタケがよく出るとのことで、ポリエチレンのテープが張ってあつた。このアカマツ林中の一部にアズマザサが群生していた。これは、後日、竹田孝雄先生が採集し、鈴木貞雄博士の同定を得た。

県天然記念物に指定されている「灰塚のナラガシワ」の前で、一同記念撮影をした。この近くにシロダモの大きな木があつて、多数の赤い実と黄色い花をつけていた。お寺の本堂を借りて昼食の後、灰塚ダムサイトの予定地である小塩野へ向かって谷を下る。陰湿な谷で、ヤマリソウ、ササノハスゲ、ナキリスゲなどがあり、小さい木だがハルニレもあつた。ダムの予定地付近にレンブクソウがあるとのことで、桑田夫人の案内で掘つたところ、特徴のある塊茎が出て来た。そこはクサソテツ、カモジグサ、ギンギシ、カラムシなどの生えた細かい砂質の堆積土である。

ダムの予定地から田戸を経由して、灰塚へ向かう。溪側の急斜面はアベマキ、ノグレルミ、シラカシ、ウツギ、ヒメウツギ、マルバウツギ、ナンテン、ナワシログミ、テイカカズラ、ナツツタ、マルバマンネングサなどがあつて、シマカンギクが花盛りであつた。ところどころにワスレグサ属 (*Hemerocallis*) が岩上に群生している。これはノカンゾウに似ているが興味がある。灰塚ではオギが廃田に群生していた。本種が山間部にあるのはめずらしいと思われる。

12月8日、広島県安芸郡倉橋町江ノ浦一岳浦山。「柱島」上右。参加者35名。倉橋島の最高峰である岳浦山(491m)の植物については、呉市教育委員会(1975)の報告がある。呉駅前を貸切バスで出発し、太刀掛・久藤両先生に案内をお願いした。江ノ浦の谷に沿ってコジイの見事な森林が残っている。社叢でも何でもないところに、このような常緑広葉樹林が残っているのは、県内ではめずらしいことである。太刀掛・久藤両先生と共に植生調査を行った結果を次に示す。

海拔 110m, 方位 N20°E, 傾斜 10°, 露岩 50%, 面積10

×10m. 高木層 15m, 植被率 100%, 胸径 47cm, コジイ 5.5, アラカシ1.1, テイカカズラ+. 亜高木層 8m, 60%, 8cm, ヤブツバキ3.3, アラカシ1.2, ヤマザクラ 1.1. 低木層 2m, 50%, 1cm, ヤブツバキ2.2, イヌビワ 1.2, ネズミモチ, アラカシ, カクレミノ, キツタ, ソヨゴ(以上+.2), テイカカズラ, タイミンタチバナ, ヤブムラサキ, シロダモ, コジイ, シャシャンボ(以上+). 草本層 0.3m, 30%, テイカカズラ2.3, キツタ 2.2, シュンラン, ハゼノキ(芽生え), ゴンズイ, ウチワゴケ(岩上), タイミンタチバナ(芽生え), ネズミモチ(芽生え), サルトリイバラ, ヤブムラサキ(芽生え)(以上+).

溪流に沿うコジイ林下にはイズセンリョウ、ヒメイタビ、イタビカズラ、イスノキなどがあり、ホウロクイチゴが1株見つかったのは注目に値する。常緑広葉樹林を抜けて伐採跡を通って行くと、海拔 140m でコショウノキ(つばみ)を見つけた。本種は県下でもまれにしか知られておらず、倉橋島新記録であつた。岳浦山を登って行くとコショウノキは個体数も多く、おそらく広島県で一番多い所ではないかと思われる。峠(240m)から少し登ったモウソウチク林縁でホウライカズラが見つかった。県内では宮島・上浦刈島に次いで第3の産地となる。岳浦山は予想以上に常緑樹が多い。



図6. コショウノキ, 広島県安芸郡倉橋町江ノ浦一岳浦山(海拔 140m). 撮影 関 太郎. 8. XII. 1985.

海拔 380m, 方位 N60°W, 傾斜 25°, 10×10m. 高木層 25m, 植被率 70%. 胸径 35cm, アカマツ4.4, アカガシ 2.2, コナラ2.1, ムベ1.2, テイカカズラ+.2, ミツバアケビ, アオツツラフジ, ヤマイバラ, サンカクヅル, クズ, ウラジロマツバサ(以上+), 亜高木層 8m, 80%, サカキ3.2, ネズミモチ2.2, ウラジロガシ, ヤマザクラ, シキミ, ウツギ(以上1.1), ムベ+. 低木層 2

m, 60%, シキミ, ネズミモチ, ヒサカキ (以上2.2), カクレミノ1.2, シロダモ, サカキ (以上+.2), ヤブツバキ, イタビカズラ, ナワシログミ, ヤブニッケイ, カゴノキ, ミヤマシキミ, *Lonicera* sp., イヌツゲ, コマユミ, コショウノキ (以上+). 草本層 0.3m, 80%, ヤブコウジ4.4, ジャノヒゲ, テイカカズラ (以上1.2), キヅタ, サンヨウアオイ, シロダモ (芽生え), シキミ (芽生え) (以上+.2), ヤブニッケイ (芽生え), ネズミモチ (芽生え), ビナンカズラ, ウラジロマツブサ (芽生え), シュンラン (以上+).

江戸浦のコジイ林と岳浦山の常緑樹を多く含む森林は、貴重な存在であるので、何らかの保護対策が望まれる。

今回の記録は1年未満であるので、まとめは次回にゆずりたい。観察会の案内・バス予約・写真提供などで次の方々にお世話になったのであつくお礼申しあげる(ABC順、敬称略)：久藤広志、石川真智子、河毛周夫、桑田健吾・武子、三上幸三、太刀掛優、竹田孝雄。

文 献

安藤久次 1960. 広島植物採集会. ヒコビア 2: 19.
 林 彌栄 1941. 日本植物新産地報知 (其四). 植研 17: 305-310.
 広島県理科教育センター(編) 1972. 理科教育資料69. 理科の野外観察. 広島県のおもな生態観察地点と観察指導の要点. 88 pp., 広島.
 堀川芳雄 1942. 巖島の植物. 広島県史蹟名勝天然記念物調査報告 5: 159-212, pls. 44-52. 広島県, 広島.
 Hukusima, T. 1979. Phytosociological studies on the vegetation at Kuï Block Field, Hiroshima Prefecture, Japan. Bull. Yokohama Phytosoc. Soc. Japan 16: 251-265.

Bull. Yokohama Phytosoc. Soc. Japan 16: 251-265.
 賀茂郡北部植物実習会(編) 1931. 田代善太郎先生校正 鷹巣山植物目録. 未完了. 6 pp. (謄写印刷).
 加藤彌栄 1940. 日本植物新産地報知 (其三). 植研 16: 443-446.
 河毛周夫 1933. 藤尾植物誌 (第一報). 79 pp. (謄写印刷).
 倉田 悟・中池敏之 1981. 日本のシダ植物図鑑. 分布・生態・分類. 第2巻 648 pp., 東京大学出版会, 東京.
 呉市教育委員会(編) 1975. 呉教育指導資料135. 倉橋島の植物. 植物研究の手引 8. 121 pp., 呉.
 Maekawa, F. 1933. *Alabastra Diversa* II. Bot. Mag. Tokyo 47: 613-618, 662-663.
 Sasaki, Y. 1964. Phytosociological studies on the beech forests of southwestern Honshu, Japan. J. Sci. Hiroshima Univ., ser. b, div. 2, 10: 1-55.
 関 太郎・吉野由紀夫 1985. ヒコビア植物観察会の記録, 1983-1985. ヒコビア 9: 273-282.
 鈴木兵二・関 太郎(編) 1978. 第2回自然環境保全基礎調査 特定植物群落調査報告書. 261 pp., 広島県, 広島.
 鷹村 権 1979. 日曜の地学 [7]. 広島の地質をめぐって. 200 pp., 築地書館, 東京.
 竹田孝雄 1985. 広島県のササ (1). 比婆科学 131: 1-11.
 Toyohara, G. 1984. A phytosociological study and a tentative draft on vegetation mapping of the secondary forests in Hiroshima Prefecture with special reference to pine forests. J. Sci. Hiroshima Univ., ser. b, div. 2, 19: 131-170.

1986年1月13日受理

1

2